

# ナンセンスなシーンの連続が観る者の想像力を極限まで試す。 「乗るか反るか」の実験の行き着く先は？

メガロシアター「ジン山ウンテン」  
5月7日 高円寺円盤

にせの通貨を使って観客に客席を買わせたり、役者の話す台詞が全て数字と記号だったり、舞台上に誰もいないシーンが数分間続いたり…演劇パフォーマンス集団、メガロシアターの作品には演劇という形式に対するメタ意識と同時に、ブラックなユーモアも溢れている。そんな彼らの最新作は高円寺にあるレコードショップ「円盤」の企画のひとつとして行われたが、この作品も従来同様、どう評価していいのかわからない困った問題作であった。20人も入れればいっぱいになってしまうほどに狭い店内に、10人強の私服のパフォーマー達が話をしたり店内のレコードを見たりしている。客席は設けられておらず、観客はパフォーマンスを好きな位置から観ることが出来る。一回限りのプレ公演という位置づけのためか、お客は少なく、しかもそのほとんどは身内ともいえるような中で公演は始まった。これまでのメガロシアターのパフォーマンス同様、作品は幾つかの短い断片的なシーンを構成したものだ。あちこちにいたパフォーマー達が小さい声で何かごよごよと囁いていると思うと突然意味不明なフレーズで歌い始める、パフォーマーが一列に並び、数字を連呼しスロットマシンのようにそれを止めて行く。数字の語呂合わせでつくられた歌「ゴーゴーサンキューロック」を合唱。そこから思うと全員がいきなり会場の外に飛び出し、どこに行くのかと窓の外を見ると、路上でポーズをキメている（外を通る自転車が全く無視して素通りしているのが可笑しかった）。このようにまったくナンセンスと思われるパフォーマンスの数々が「時間強のあいだ繰り広げられた。

また、今回はメガロシアター流の「オブジェクトシアター」がシーンの中に盛り込まれており、非常に興味深かった。会場の中央に敷いてある敷物の上にアフロヘアーのかつら、恐竜のおもちゃ、鎖、男物の靴、ネクタイ、地球儀、コンドームなど雑多なものが並べら

れており、パフォーマーがそれらの物を主人公にした幾つかのシーンを作り出してゆく。ある物が敷物の上に置かれると、ストップウォッチを持った監視員のような役目のパフォーマーが「イン」と告げ、シーンが始まる。それを置いたパフォーマーがその物から連想される台詞や音を口で表現し、また物を動かしてなにがしかのシーンを作ると、別のパフォーマーが別の物を持って来てそのシーンを展開させてゆく。パフォーマーが「黒子」となってその存在を消すことによって、観客には、物とその背後にある物語が余計に想像されてくるのだ。しかしある程度自由に想像出来るとはいえず、シーン自体は一向に何のシーンなのかはよくわからないまま終わってしまう。さらに監視員役が思わせぬに経過時間をカウントするのも奇妙だ。

このようにメガロシアターの作品には、分かりやすい物語の筋や展開といったものが極力排除されており、行われているパフォーマンスが一体どういう意味なのか、あるいはそれをどう楽しむかは観る者の想像力にゆだねられている。彼らの作品の評価が極端に分かれるのはそのためであろう。言ってしまうと「乗るか反るか」、自分からそれを楽しもうとする人にとっては「非常に面白い」ものに感じ、一歩引いてしまえばそれは「苦痛でしかなくなってしまった」といった類いの作品なのだ。メガロシアターの作品の特徴であるナンセンスなシーンや時折設けられる「沈黙」、様々な既存のテキストのみならず、過去の自分達の作品からも多く行われる「引用」。これらの要素に共通するのは、意味から行為を起していくのではなく、行為することによって何か新しい意味やイメージを獲得しようという態度であろう。例えば作品の最後の方で、一人のパフォーマーがゴーグルを持って「これは私です!」とつぶやくと、次のパフォーマー達がそれぞれ違う物を手にし、「これは〇〇です」と言うシーンがあったが、次のパフォーマーが何を言うのか想像出来ず、出て来た意外な言葉にはっとさせられる瞬間が多々あった。恐らく「これは」の後に何を言うかはパフォーマーの即興に任せられているのだろう。無論ゴーグルが私だ、というのは全く意味を成さないが、我々の無意識にあるものを刺激されたようで、忘れがたい印象を残す。これは未知のイメージを作り出すために言葉をつなげるようなものだが、この言葉も持っている意味はからっぽなのだ。そしてこのからっぽな空間に無限のイメージが存在する。メガロシアターの作品を観ていると、作品を

●メガロシアター…2000年東京芸術大学の学生を中心に結成された「フィジカル&コンセプチュアル」シアター。特定の演出家を設けず、作品ごとにメンバーを募り、ワークショップを中心としたユニークな制作スタイルで斬新な作品を次々と発表。演劇/ダンス/音楽/美術などあらゆるジャンルを自由に飛び越え、「究極の現代劇」を模索している。代表作に巨大都市を劇場に見立て、そのリアリティに迫った「メガロポリストウキョウ」シリーズ等がある。8月には茅場町のギャラリーにて新作を発表。ホームページhttp://www.megalo.bizも参照。



メガロシアター流オブジェクトシアターの様子。敷物に置かれた物をパフォーマーが使い、シーンを生み出して行く。

観ているというより、観客である自分自身を観ているような気にさせられることがあるが、それは観客がからっぽの記号に何か意味を見いだそうとする過程で、自分自身を発見することになるからであろう。この「自分自身を観ているような感覚」こそ、メガロシアターの作品の大きな魅力なのである。

しかしすべて「観ているあなた次第」というのはある意味危険であるだろう。すべて観客次第なら「作品」は存在する意味がなくなってしまふ。ただ、彼らの作品は、観客が自分自身に気がつくための、様々なアイデア、仕掛けが豊富に持っているという点で、作品としての存在価値を保っていると思われる。今回の作品はプレ公演のためか、「決定的な仕掛け」を観ることが出来なかったのは残念だが、いずれは客があつと驚くような仕掛けを観せてくれるに違いない。また、作品のそこかしこに自己と他者、その境界線についてなど、テーマとなる物語が見いだせる。つまり全て観客まかせではなく、作り手側がある程度想定する結論や「意図」も見え点で、これが単なる実験のための実験ではないことも、注意深く観るならば分かるであろう。ところで画家のロバート・ラウシェンバーグが自分の作品について語った言葉を思い出した。彼曰く自分の作品は、作品自身に何か意味があるのではなく「(作品ではなく)どこかちがう方向を見るように」というサインなのだといふ。同じようにメガロシアターも作品の中で完結するのではなく、舞台の外観へ観客の視線を持っていかうとしていくように感じる。彼らの作品で小道具として「矢印」が使われるのは象徴的だ。その矢印の先は観客である私の方に向けられているのかもしれない。(小笠原幸介/本紙)



## 『ダンスがみたい! 8』開幕。注目のラインナップを紹介

今回で8回目を数える恒例の

die pratze dance festival 「ダンスがみたい! 8」(7/3~8/21)

今回も前回好評だった「海外のダンサーと日本人による<共同制作><観作>の『インターナショナルシリーズ』と、「10人の批評家を選ぶ、10人のダンサーの『批評家推薦シリーズ』を同時開催いたします。乞うご期待!

### ●インターナショナルシリーズプログラム ~海外のダンサーと日本人による<共同制作><観作>シリーズ~

- <神楽坂 die pratze >
- 7/3~5 マイケル・ベステル×工藤丈輝(USA/日本)
- 7/13~14 ダニエラ・正朔(オーストリア/日本)
- 8/1~2 マリー・ガブリエル・ロッテ/イシダタケ(イギリス/日本)
- 8/8~9 山本萌/ルーカス・レンドト+ゾハ・コーエン×鶴山欣也(日本/スペイン/イスラエル)
- <麻布 die pratze >
- 8/18~20 ジャッキー・ジョブ/遠藤寿彦(南アフリカ/日本)

(※8/20 シンポジウム「コンテンポラリーダンスの現在と、これから」有り)

### ●批評家推薦シリーズプログラム

~ダンスの批評家たちが推薦するダンサーのシリーズ~

- <神楽坂 die pratze >
- 7/15~17 森繁哉 福士正一 阿部利勝 ※推薦人:志賀信夫(舞踊批評)
- 7/24~25 根岸由季※die pratze dance festival ダンスがみたい! <新人シリーズ4> オーディエンス賞受賞者
- 8/15~16 ささらほうさら ※推薦人:原田広美(舞踊評論)
- 8/18~19 ピンク ※推薦人:松澤慶信(舞踊批評)
- 8/21 KeM-kemunimaku-project ※die pratze dance festival ダンスがみたい! <新人シリーズ4>新人賞受賞者
- <麻布 die pratze >
- 7/11~12 岩淵貞太 ※推薦人:乗越たかお(舞踊批評)
- 8/1~2 矢作聡子+庄 隆志+野崎夏世 ※推薦人:吉田悠樹彦(舞踊学・舞踊批評)
- 8/4~5 神雄二 DANCE MISSION ※推薦人:村岡秀弥(舞踊批評)
- 8/6~8 今津雅晴×今津武志 ※推薦人:稲田奈緒美(舞踊批評)
- 8/10~11 大岩淑子 ※推薦人:西田留美可(舞踊批評)
- 8/13~14 (KOGA DANCE) presents ※推薦人:前田允(舞踊批評)
- 8/16 神村恵×種子田郷 ※推薦人:石井達朗(舞踊評論家)
- ※チケット情報はP4参照

カットイン Vol.51 2006年6月号 発行/タニエニクス チェンブリッツ フォートナイト/ウー/シヤ/ウー 編集/井上二朗+山内原幸介 090-5391-0538 kousuke@esawara@mail.goon.jp DTP/ORANGE 05A

# 実際の街が舞台になる。目の前にある歌舞伎町を舞台に、街の歴史と物語が熱く語られた。

東京ギンガ堂「夢 — 歌舞伎町物語」

5月17日～21日 新宿シアターアプル

ならびに歌舞伎町シネシティ広場

ここは新宿・歌舞伎町。久々にシアターアプルに足を運ぶが、半年ぶりくらいにせいか、道を間違えてしまったようだ。ここは女性が歩く道ではない、私には関係のない夜のネオンがととてもまぶしい。外は雨が降っていた。劇場に着くと、カッパを渡されてシアターアプル（新宿コマ劇場）横の広場で待っていた。広場には消防車が一台と作られた舞台。それらを取り囲むように、公演の織を持ったホストたちがたくさんいた。テレビでは見たことがあったけど、さすが歌舞伎町ならではの演出。「あっちっすね！」と金髪ロン毛ピアス男に場所を教えられ、待つことしばし。作られた舞台に上ったり下りたりしながら、ちんどん屋のような、大道芸のような人たち、セーラー服をまとった女学生たちが歌い、踊り、笑みをまく。広場には私たち観客はもちろん、通りすがりと思われるサラリーマンたちも、一緒に楽しみながら手を叩く。

突然止まっていた消防車のサイレンの音とともに、「この街に火をつけてやる」と叫ぶ大沢樹生演じる主人公・周龍華の音が響く。それは、その広場から見上げる位置にあるビルの最上階からだった。周龍華は、警官役の男たちに腕をつかまれ、ビルの中へ引きずりこまれていった。

「町おこし」という言葉が似つかわしくない、歌舞伎町。劇場内での物語ならともかく、なぜこのように実際の町を使い、しかも夜のにぎわいを見せる歌舞伎町で物語が始まるのだろうか？ 外での喧騒の続きは、シアターアプルで行われた。ホストに先導されながら、会場に戻る道すがら考えた。これは、とてつもないものに巻き込まれてしまった…。

歌舞伎町、その名は戦後もなから使われ始め

た。戦前、このあたりは池であり、そして埋め立てられ、府立第五高女という学校ができた。そして戦争。この地で工場を営んでいた鈴木喜兵衛という人を中心に、焼け野原となった土地に劇場、映画館、ダンスホールなどを建設しようという計画が立ち上がる。一番の目玉となるのが「菊座」という歌舞伎を上演する劇場だったことから、「歌舞伎町」の名が付けられた。戦前から日本人、韓国人、中国人などあらゆる人種が集まっていたこの地で、多くの人たちが手を取り合い、助け合って、今やアジア最大の歓楽街となった、という。

主人公の男・周龍華は、歌舞伎町にあったダンスホール「ムーランルージュ」の人気ダンサーだった祖母を持つ、日本と中国のハーフ。歌舞伎町に来て見つけた「夢—ランルージュ」は、風俗のおいがる店。「違う、こんなのがムーランルージュじゃない！」と、祖母がダンスをしていた時代にタイムトリップしていく…。

戦争によってあらゆるものが禁止されていたことは知っていたが、ムーランルージュのダンサーや演出家も思ったことを表現できなかった。ましてや、異国からやって来たダンサーたちは帰国し、近くの府立第五高女の女学生たちまでもダンサーとして活躍していたとは。

やがて戦争終結。なにもかも失い焦土となり「山手線が近く見えるね」なんていうセリフも飛び出すような、新宿の町。GHQの指導により、再建計画は頓挫。時間が経ち、70年代中国で、「売国奴」として罪を犯された周龍華の父親と母親。そして周龍華が放火犯と疑われ、冒頭に実際の町で模していた、5年前の雑居ビル火災。それぞれの時代、楽しいことの裏でつらい思いをしている人がいるという「現実」や、あらゆる人種や業種が絡んでいるこの町の「宿命」を知るにつけ、私は心が痛む。

主人公・周龍華は思い描いていた楽しい街・歌舞伎

町を再構築するため、この地で生きていくことを決心する。鈴木喜兵衛が町を復興する「夢」を実現させていったように、先は長いが、

2時間以上のドラマで語られた、歌舞伎町の歴史、そして歌舞伎町を行きかうさまざまな人種の人々が抱く思いや夢。実際の町を舞台にし、周龍華が過去と現代を行き来することで、ホストや風俗だけが歌舞伎町ではない、先人が積み上げてきた歴史や熱い思いを知ることができた芝居だった。

(カットイン美術担当・藤田千彩)

●品川能正…東京ギンガ堂代表、脚本家・演出家「人間の理性と狂気の間の微妙な均衡を描く」作風として高い評価を得ている。2001年には日本と韓国の国際共同制作舞台「火計り〜四百年の肖像」の脚本を手がけ（第四六回岸田戯曲賞の最終候補作）「日韓の演劇文化交流に希望」と高く評価された。2003年は「21世紀日本ロシア交流フェスティバル」（ロシア、ハバロフスク/由紀さおり、南こうせつ等出演）の三万五千人動員の野外音楽コンサートの演出を担当。2004年には代表作「KAZUKI〜ここが私の地球」（作・演出）でアメリカ公演（ニューヨーク、ロサンゼルス）を、2005年はソウル市劇団との国際共同制作「沈黙の海峡」（作・演出）（ソウル、東京、大阪、山口）を成功させるなど国際的に活躍している。

劇団HP…<http://www.tokyo-gingado.com>

## 奇想天外、前代未聞のボイスシアターの登場。原始のコトバの海の中で「私」は迷子になる。

「チャクルバ2〜ザウミの海で」

作・演出：巻上公一

4月14日～16日 麻布die pratz

世界的なボイスパーフォーマー巻上公一氏が演出を手がける「超歌唱オペラ」、『チャクルバ2〜ザウミの海で』が麻布die pratzで上演された。巻上氏のボイスワークショップ生を中心に集められた出演者達が、国籍不明の衣装で登場し、それぞれの個性を生かした奇妙キテレツな「声」を使ってパフォーマンスを繰り広げる。まさに奇想天外な舞台作品だ。この摩訶不思議な舞台の印象を言葉で言い表すのはむずかしい…と思っていたら、巻上氏と共演した経験もあるパーフォーマーで演出家の今井尋也氏が作品について以下の文章を寄せてくれた。この前代未聞のボイスシアター、文章から実際の舞台がいかなるものだったか、ご想像頂きたい。(CUT IN)

「チャクルバってる？」

おおよそ、音楽が生まれる以前であり、コトバが生まれるか、生まれないうか未分化な状態。コトバの原始の

海に足を迷わせ、ときどき足を止めると立体的な森の音が聞こえてくる。たしかに毎朝の鳥のさえずりはあの頃から変わっていないのだが。

最近、目覚まし時計を買った。目覚ましの音を何種類かの鳥の声から選べるやつだ。しかもランダムモードにしておくと、どの鳥が鳴くのか、実際に聞いてみるまでわからないという優れものだ。すぐさま、この時計は私のお気に入りになった。あの機械的でケタマシベルの音でたたき起こされる日々から解放され、鳥のさえずりに優しく耳を撫でられながら、目覚めの時を迎える日々が始まったからだ。

そんなある日、事件は起こった。

朝の6時に目が覚めてしまったのだ。8時にセットしておいたはずなのに。ただでさえ、目覚めの悪い私が、2時間も早く起きてしまったのだ。おかしい、確かに鳥のさえずりをこの耳で聞いたはずなのに。早速、寝ぼけた手先で目覚まし時計が故障していないか調べてみる。しかしどこにも異常はない。ふと窓の外を眺めてみる。庭に生えている一本の柿の木の枝に鳩ぐらいの大きさの茶色い鳥が一羽とまっている。こちらを見ている。それから、その次の瞬間だ。私が不思議な感覚に囚われたのは、その鳥が突然鳴いたのだ。そしてその鳴き声は目覚まし時計のそれとそっくり同じだった。私は思わずつぶやいた。

「あ、チャクルバってる。」

生きているのか、死んでいるのかわからなくなるよ

演出の巻上氏



うな身体の状態。音楽やコトバ、音の原始に立ち会わされる瞬間。それはただ、現実の鳥のさえずりと虚構の鳥のさえずりを取り違えたということなのだが。

こうして巻上公一が展開する魔術的リアリズムの世界は私たちの現実の世界の中にフッと忍びよってくる。彼の舞台はその仕掛けに満ち溢れている。15の謎のセレクトショップが軒を連ね、海苔でできた立派な髭をたくわえたアルペンの少女が踊り、3人の密教の坊さんがさすらい、裸の格闘家らしき男が暗黒舞踏のように体を動かし、デコボコトリオの下手くそな組立て体操が披露されたかと思うと中国拳法家もどきの女が歌い、ケタマシ笑い声の裏でイギリスやホームメイ\*が悲しく響く。やがて巻上自身がコンダクトする全員即興ボイスセッションがヒートアップしていく。最後にヨーロッパだかアジアだかの片隅で歌われるような懐かしくて、物悲しいメロディが繰り返され熱唱されると、暗転、「チャクルバってる？」とのナレーションが響く。幕が閉じる。その瞬間、私たちは特定の国籍や音楽性、身体性を持ちえなくなる。生きているのか、死んでいるのかわからなくなるような身体の状態。巻上公一の魔術的リアリズム、ボイスシアター「ザウミの海」に若いパーフォーマーたちが思い思いに船を消し出したのを見た。

(今井尋也/演出家)

\*イギリスやホームメイ…イギリスは中央アジア、トウバ共和国に在る2族の系統部。ホームメイは同じくトウバ共和国の伝統的な歌唱法で、他言語の形でコントローラシ、2つの音を一度に出す歌い方。

撮影/田中英世(3点とも)



# 夏到来! にふさわしい、エネルギッシュな 2劇団を紹介。～タイニイアリス7月の公演より

**劇団神馬 「12人の怒れる学校へ行こう!」**  
7月7日(金)～10日(月)  
◎新宿タイニイアリス

7/7(金・七夕) … 19:30  
7/8(土) … 14:00&18:00  
7/9(日) … 14:00&18:00  
7/10(月) … 18:00

☆作・演出 = 上野憲明

☆出演 = 五十嵐真理、印宮伸二、大野裕子、荻山恭規、関谷誠、倭文俊(フリー)、奈良岡章(フリー)、のじまのじ(フリー)、真賀里知乃(大人の麦茶)、松本紫(フリー)、他

☆料金…ベア:前売4,000円、一般:前売2,300円/当日2,500円、18歳以下:前売2,000円/2,200円

※未就学児童の入場・同伴はお断りしております  
→とある高校の鶏小屋で、鶏が殺されるという事件があった。自治委員会は一人の生徒「3年D組:田中太一」を犯人として拘束。数日後、学内裁判所にて、その生徒の審理が行われた。

評決を下すのは生徒の中から無作為に選ばれた12人の陪審員。

受験からくるストレスでむしゃくしゃしてやったのだろう、という意見が大勢をしめるなか、1人の陪審員が、田中君の無罪を訴える。

「田中君は鶏を殺してはいません」

話し合いの中で明らかになる真理。浮かび上がる学園、部活内の根深い問題の数々。

学園を舞台に、スポコンあり、コスプレあり、恋あり、

教育問題あり、陪審員ありその中で「生きるとは何か」を問いかける“熱血青春バカ・グラフィティ”

田中君は本当に鶏を殺したのか!?—  
☆問い合わせ…shimba\_seisaku@hotmail.com  
http://www.asutoeito.co.jp/shimba



劇団神馬

**劇団ザ・ニートニク**  
「民宿チャーチの熱い夜4」  
7月14日(金)～17日(月)  
◎新宿タイニイアリス

7/14(金) … 19:30  
7/15(土) … 14:00&19:00  
7/16(日) … 14:00&19:00

アジア各都市をネットワークで繋ぐ新宿の小劇場  
**TINY ALICE** より最新ニュース

7/17(月) … 13:00&18:00

☆作・演出 = 渡辺 熱

☆出演 = 大貝充、江藤修平、里井ひさし、菊池敏弘、三崎千香、木川聖子、嶺Co.、Ryu、本家徳久、朝日俊介、大場めぐみ、平野ともえ、柿元周太郎、本尾昌則、的場恵梨、菊地芽衣子、岡村伸行、and渡辺 熱

☆料金…前売:2,800円 当日前売:3,000円

→ポップでスピード感のある人情喜劇を創る劇団ザ・ニートニクでは、7月にタイニイアリスで人気シリーズ「民宿チャーチの熱い夜4」を上演いたします。

この作品の舞台は【沖縄】です。

南の島にある民宿を舞台に、そこを訪れる様々な人々が繰り広げる事件、笑い、涙、そして恋。毎回大好評を頂いておりますシリーズ最新作。乞うご期待!

☆問い合わせ

090-3668-2791(エトウ) dsu@lp.lovepop.jp

チケット受付6月1日開始! ホームページからもチケット予約出来ます。http://dsu.lovepop.jp

劇団ザ・ニートニク  
「民宿チャーチの熱い夜3」より。



# 様々なカンパニーで活躍する期待の ダンサーが登場。「ダンスがみたい! 8-批評家推薦シリーズ」より

「mint」★出演=睦地亜耶加 岩淵貞太  
「岩淵貞太ソロ(タイトル未定)」★出演=岩淵貞太 @麻布ディブラッツ  
7/11(火)&12(水) 19:30 ※11(火)アフタートーク有り

問=080-5440-7387 die pratze dance festival「ダンスがみたい! 8-批評家推薦シリーズ」10人の批評家が選ぶ10人のダンサー(2006.7.11~8.21)より

→推薦人=乗越たかお(舞踊批評)……APE、ニプロール、山田うんなど様々なカンパニーで活躍している岩淵貞太は、二枚目の顔と鍛えた身体の魅力が顕著で、わりとハジけた動きが多かったように思う。

しかし初振付作品「smoke」(睦地亜耶加とのデュオ作品)では、エネルギーを内包したまま圧縮率の高いムーブメントを見せた。獲得しつつある独自のダンスのリズムが育ってきたらどうなるのか、将来を大きく囁望しているダンサーの一人なのである。

★岩淵貞太氏にインタビュー

Q—いままではどのような活動をしてきたのでしょうか。

A—学生時代は芝居をしていました。けど途中でつまづきまして、日本舞踊とか舞踏の稽古に通いだしたのがはじまりですね。それからニプロールとか伊藤キム+輝く未来、Co.山田うんなどに参加しました。

Q—色々なカラーのカンパニーに出演してますね。  
A—たしかに…。節操がないと言われることもあります(笑)。でも、色々な世界観、価値観に触れられて面白いです。打ちのめされることもしばしばあります

けど。  
Q—作品を作り始めたのはいつごろですか。

A—2005年4月に初めて「smoke」という作品を作りました。15分くらいのデュオです。今回で2作目です。

Q—ダンサーとして参加する時でも振りを作ることあると思うのですが、自分の作品の時はなにか違いがありますか。

A—ダンサーとしてかかわる時は振付家の雰囲気を感じて考えますね。考えた上ではずしていかうとかもしてみますけど。自分の作品では……とにかく色々やってみます。まだ自分がどんなダンスを作るのかわからない部分が多いので。

Q—今回は「mint」(睦地亜耶加・岩淵貞太のデュオ)と、「double」(岩淵貞太ソロ)の2作品ですね。どのような作品になりそうですか。

A—デュオは前回も睦地さんとの作品を作ったのでその延長になりそうです。前は他人との絶対的な距離感っていうのがモチーフになっていて、今回はその距離感に少し踏み込んでみようかな。あと前回は「砂漠」な感じだったので「森」って感じにしたいです。ソロは振付の「岩淵貞太」がダンサーの「岩

新しい演劇を発信する神楽坂と麻布の小劇場  
**DIE PRATZE** より最新ニュース

岩淵貞太」に振付ける!! ということで「double」です。それで面白いものができたらなあ。ナルシスティックではなく、すごく客観的に作品を作りたいですね。僕にとって踊りは自分とお客さんの記憶に触れることだと思うので、そんな作品になればいいなと

Q—どういことですか?

A—音楽のような感じですかね。言葉みたいに具体的ではないけど、塊のまま飲み込め!! みたいな。あとは、観ているお客さんの身体が興奮してくれたいですね。

Q—音楽聴いていて体がのってくる状態のような

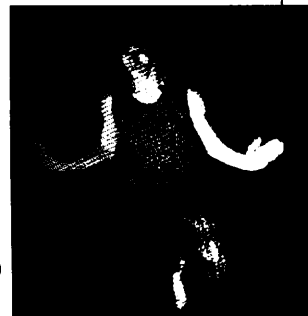
A—そうですね、音楽とかミュージシャンに憧れがあります。けれど、「音楽になるダンス」ではなくて「新しい言語」としてのダンスを作りたいです。って、なんだかよくわからなくなってきましたね。とにかく観に来てもらえたらと思います。

Q—では最後に一言お願いします。

A—お客さんからの意見、質問、文句、叱咤、罵詈雑言、怒声、罵声など、こちらはたたく準備をしてお待ちしてます。是非劇場に来ていただきたいと思ひます。

(「ダンスがみたい! 8」  
全体のラインナップは  
p1を参照。)

→「smoke」(撮影/渡邊聡)



# 『指定管理者制度』で地域の文化施設は どう変わる? ~横浜市「大倉山記念館」の場合 2

大倉山記念館は横浜市港北区にある歴史的な建物で、一年を通じてコンサートや展覧会等、様々なイベントが行われ、市民にも利用しやすい文化施設として愛されている場所だ。

平成15年に地方自治法の一部が改正になり、地方の公共施設を民間の団体が管理することが可能となった。いわゆる「指定管理者制度」による管理運営である。この法律改正によって大倉山記念館は今年4月から特定非営利活動法人アートネットワーク・ジャパンが管理運営を行うことになった。

豊島区の廃校を本格的な劇場/稽古場として蘇らせた「にしすがも創造舎」の運営や国際的な舞台芸術フェスティバル「東京国際芸術祭」等の企画制作を成功させてきたアートネットワーク・ジャパンが、今度は大倉山記念館をどのように展開させていくのか楽しみである。今回は記念館のその内部の様子をレポートします。

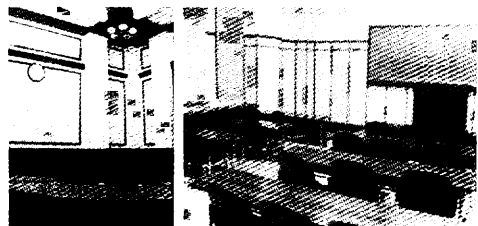
大倉山記念館には80人入るミニコンサートホール、壁に通常の大きさの作品60点ほどが飾れる回廊式ギャラリー、それと10個の会議室兼練習室があるが、その特徴と言えはなんと言っても料金が安いこと。ギャラリーを1週間借りて28000円(!)、ホールは1日でなんと5000円(!)。定員50人の会議室を1日借りてわずか3000円(!)という安さなのである。

→写真1…色々な会議室机。右の部屋は机を片付ければ演劇の稽古には十分な広さがある

さて、会議室はそれぞれの広さや空間の特色がそ違う部屋が10部屋あるのだが(写真1)、色々な目的に使うことができる。例えば小さな室内楽の編成なら音楽のリハーサルを行うこともできるし、実際にコーラスの練習等にも使用されている。また、いくつかの部屋は適当な広さをもっているの、演劇やダンスの稽古場として使われている。その安さのこともあり、横浜に拠点を置く劇団としては「使わない手はない」施設なのである。

また演劇関係者にとっては、回廊式のギャラリーの中庭も魅力的な空間かもしれない(写真2)。細長いギャラリーとそれに開かれた屋外の空間。使い方によっては、この場所を活かした面白い作品を作ることができるのではないかと…と思っていたら、すでに眼を付けていた劇団があるらしく、ここで実際に公演が行われるそうである。

写真3は記念館の中にある待合室のような場所なのだが、近々ここにカフェやミュージアムショップをオープンする予定だという。何度か利用したこと私の



印象としては記念館という使用されている部屋以外にはひっそりとしていて、利用者は自分達の練習が終わるとさっさと帰ってしまう…という印象が強い。記念館の中にくつろげるスペースが出来れば、利用者同士の交流も生まれるかもしれない。

さて、ANJが管理するようになってからは、ポスターの大形出力など細かいサービスも行っていく予定だという。また、また具体的な内容は決まっていなかったが、STスポットとの連係企画も考えられている。記念館のこれまでの良さを残しつつ、それプラス何か新しい展開が見られるのを期待したい。(CUT IN/小笠原)

## ●大倉山記念館ホームページ

http://www.yaf.or.jp/fac\_sngl/okurayama/gaiyou.html



↑写真2…左は回廊式のギャラリー、右はその中庭  
→写真3…待合室のような空間、ここにカフェがオープンする予定

## TINY ALICE / NPO ARC

新宿区新宿2-13-6 光連ビルB1 tel&fax 03-3354-7307  
http://www.tinyalice.net tokyo@tinyalice.ne.jp

6/16(金)~6/18(日) ■ULTRA-nonsense

「逆転移」 問=090-9387-0350(佐々木)

☆作・演出=鈴木優之 ☆出演=西村愛美 清水康栄 駒木根隆介 明石香織 秋山敬也 大竹篤 塚本直毅 鈴木優之  
◎<逆転移とは>臨床心理学において、クライアントがカウンセラーに対して私的感情を持つことを転移といい、その転移感情に対してカウンセラーが私的感情を抱くことを逆転移という。

6/24(土)~6/25(日) ■劇団108

「神無月の少年たち」 問=090-8045-5775

☆作・演出=神田真樹 ☆出演=古川傑 渡壁聖奈 高橋恒明 柏湖浩一 岩崎慎 水崎温子 中山英盛 藤澤邦見 他 ◎今、小劇場界で活躍する劇団ペンネを輩出した劇団108です。深い想いを夜明けを待ち続ける人々を描きながら、アングラの勢いを残しつつも「伝わりやすさ」を大事にした舞台です。

6/30(金)~7/3(月) ■あ?プロジェクト

「ラプストリー」は突撃に! 問=TEL&FAX 03-3371-0773 ☆作・演出=コバヤシ タダシ ☆出演=小野修史 内田和宏 布施雅英 岡田珠雄 中本願久 中島智一 相馬絹依 真鍋誠志 水谷健 小林理 ◎「あ?」とは五十音のあ、アルファベットのAであり、物事の始まりを意味しています。「あ?プロジェクト」は人間の生きる意味、愛する事の意味、家族、仲間の温かさを表現する集団です。

7/7(金)~7/10(月) ■劇団神馬

「12人の怒れる学校へ行くこと」

問=shimba\_seisaku@hotmail.com ☆作・演出=上野恵明 ☆出演=五十嵐真理、印音伸二、大野裕子、秋山恭規、関谷誠、倭文俊、奈良隆章、のじまのじ、真賀理知乃(大人)、松本英 ◎とある高校を舞台に、スポコンあり、コスプレあり、恋あり、教育問題あり、陪審員あり。その中で「生きるとは何か」を問いかける「熱血青春バカ・グラフィティ」

## 麻布 die pratzte

〒106-0044 港区麻布1-26-6-2F T&F 03-5545-1385

6/15(木)~6/18(日) ■エンターテインメント アウターマン 「エンターテインメント アウターマン 第3回公演」

☆作・演出=田中暁 ☆出演=圓城寺直樹 高橋辰典 西川太清 仁平一洋 他多数 ◎満を持して贈るアウターマン第3回公演!今の世の中に鋭く切りつける!キャストも大増え、人間と吸血鬼を題材とした人々に強く投げかける!! 乞うご期待!

6/23(金)~6/25(日) ■dramatic theater RARA☆

「エンドレス」 問=090-9687-6844 ☆作・演出=吉川剛志 ☆出演=剛澤裕則 大倉俊亮 鈴木翠岳ノ内洋純郎 大浦孝明 小野瑞木 ◎誰にも言えない秘密。鉄夫は死んだかのような幸が見えるようになっていた。鉄夫は、もう一度幸を現世に戻そうとする。しかし、そこに一人の男が現れる…

7/1(土) & 7/2(日) ■単品開発

「この話とびごといい!」 問=090-4457-7087

料金=カンパ制 ◎僕たちとお経でトランス!劇場に隙間なく響かぬ文字の中から繰り広げられるコト業。耳なし芳一はたの閉めない音と笑いの崖間開発。耳をすましてニヤリ。

7/4(火)~7/9(日) ■メインキャスト

「念波先生」 問=03-3568-8126(株式会社メインキャスト) ☆作・演出=高橋玄 ☆出演=咲理 飯田基浩 竹本弥清 太夫 藤門洋子 ◎時は大正、起念動者杉村念波が秘かに処刑された。念波の再生を信じその夜道場に結集した一門であったが、迷い込んだ新聞記者の出現により思いもかけぬ結末へと…!

7/14(金)~7/16(日) ■ユニオンリングダンスカンパニー

「UNION RING DANCE PERFORMANCE [it's]」 ☆作=080-6639-6286(ユニオンリングダンスカンパニー) ☆振付・構成=川上悦子 ☆出演=川上悦子 星野かおり tami 大沢克江 石野理津子 松田菜々子 他 ◎数え切れないほどの瞬間 その瞬間と瞬間の間。コンテンポラリーダンスパフォーマンス。

7/20(木)~7/26(日) ■u-you.company

「人間一回目」 問=090-5442-1934(u-you.company) ☆作=すぎやまゆう ☆演出=すぎやまゆう 中山浩 ☆出演=杉山(水) 四宮由佳 そら 塩山美緒 朝倉千賀 中川水帆 ◎「魂の行方は? 人間の価値とは? 生きる意味とは? 愛とは? 彼女は真実をみつけれられるのだろうか? 大切なものを守れるのか?」女だらけの躍動感あふれる90分!

## 神楽坂 die pratzte

〒162-0812 新宿区西五軒町2-12 T&F 03-3235-7990

6/16(金)~6/18(日) ■恩田ツアー2006「にぎやかな荒野」

「なくしものピラミッド」 問=090-2916-1739(三村) E-mail mrco@m8.dion.ne.jp ☆作・演出=恩田ゆみ ☆出演=池下慎也 長岡洋平 吉田ミサイル 小松良和 他 ◎蝶つぎが始めた泥棒はいつ終わるのか? ミイラとりがミイラになるその瞬間とは? 恩田ツアー-第2弾は、個性的な役者陣、一人芝居仕立て。家出した世界の捜索劇!

6/21(水) ■LUNE NEO PERFORMANCE 2006

「くちづけ」\*SOLD OUT 次回までお待ち下さい。 ☆演出=江口信利 ☆出演=LUNE

6/24(土) & 6/25(日) ■劇団東京パレット

「惑星リビュート」 問=090-5426-3256(オザワ) ☆作・演出=ツムジ ☆出演=伊藤都恵 小澤早苗 落合裕也 園井一幸 涼宮始 鳥原麻由 永島里紗 ◎宇宙レベルでお送りします。回る回る惑星のおはなし。地球人も宇宙人も、この際全部巻き込んで、史上最も規模の宇宙戦争!

6/27(火) & 6/28(水) ■マルダのカフェ

「ふるえる」 問=090-5495-0035(劇団) ☆作・演出=原田悠 ☆出演=小泉芽由紀 小山綾子 下藤忠史 村越麻理子 吉田昌生 原田悠 ◎私達に直接は関係していない過去に触れてみる。例えば、関東大震災。計り知れない被害と混乱、そして加虐。台詞と身体で探る。いつの間にかの記憶

7/1(土)~7/2(日) ■劇団W.I.T.~ようこそ、わなへ~

「船橋(ふにやばし)」 問=090-8117-8661(ういつと東京本部) E-mail nikochanda7-228@yahoo.co.jp HP http://w3w.to/wit ☆構成・演出=しなやかしなちゃん ☆出演=しなやかしなちゃん てんこ ガーギー木村 ◎潮干

狩りに行くといつもいるおじさんは、その音野選手だったのかもしれないが、スタジアムにバルーンを持ち込んではいけないことに変わりはない。あまりに危険。

7/7(金)~7/9(日) ■極光

「KOUROU」 問=090-9709-0883 E-mail info@aurora-voyage.com ☆演出=小玉芳一 ☆出演=銀谷拓己 OSSY 小玉芳一 ◎AURORAから極光へ団体名を改めた公演第一弾。クローイの青年像は、時空を超えて颯々とした身体像である。次元を往還して現れる、肉体的実像を創り出す。

7/11(火) ■LUNE EMOTION PERFORMANCE 2006

「悦楽の園-蒐集家」 問=03-3235-7990(神楽坂die pratzte) ☆作・演出=江口信利 ☆出演=LUNE ☆主催=ペラドンナの會 ◎鑑声に閉ざされた虚飾の心を開く旅立ち 勇気をもって観をひらけば そこは貴女が開放できる優美な世界が待っている… ※注 この公演は女性限定となります。作品の都合上途中入場出来ません

7/18(火) ■LUNE PERFORM WITH DOLL 2006

「半端囃」 問=03-3235-7990(神楽坂die pratzte) ☆作・演出=江口信利 ☆出演=LUNE ☆主催=ペラドンナの會 ☆協力=岡本ファミリー ◎耳もとで轟くせせらざの音色は髪を突き裂く稲妻の如く 気の遠くなるような凍付いた存在しない或る朝 生きつづける夢の中の出来事…

★★★die pratzte dance festival「ダンスがみたい!」★★★ 料金:前売=¥2,500 当日=¥3,000(学生は¥500引、要学生証) ダンスがみたい!お得なチケット(インターナショナル、批評家推薦、両シリーズで使えます。1演目に付き1回有効、30枚限定、die pratzteのみで発売) 5回券=¥9,000(学生=¥7,000) 通し券=¥16,000(学生=¥13,000)

チケット予約:チケットぴあ 0570-02-9999

神楽坂 die pratzte 03-3235-7990(火曜を除く12:30~17:30)

kagurara2000@ybb.ne.jp

麻布 die pratzte 03-5545-1385(月曜を除く18:00~23:00)

azabubu26@ybb.ne.jp

★★★ ダンスがみたい!8-インターナショナルシリーズ ~海外のダンサーと日本人による<共同制作><創作>シリーズ~

■マイケル・バステル×工藤文輝(USA/日本)

「stray birds ~迷鳥舞踏」

7/3(火)~7/5(水) 19:30 ※3(火)アフタートーク有

出演=マイケル・バステル 工藤文輝 照明=田中慎行 制作=松岡真弥

■Daniela/正朔(オーストラリア/日本)

「Return of the Moon」 出演=Daniela

「魔人倶楽部「雷の降る器」」 出演=正朔 照明=神戶保

7/13(木) & 7/14(金) 19:30 ※13(木)アフタートーク有

原稿を募集しています

CUT INでは、演劇、ダンスなどの舞台芸術を中心に美術や音楽、映像などジャンルを問わず実験的な表現をとりあげた原稿を随時募集しています。

詳細は

kousukeogasawara@mail.goo.ne.jp(小笠原)

までご一報ください。